

令和4年度 第1回瀬戸市ICT活用・DX推進協議会 議事録

開催日時	令和4年10月4日（火） 午後2時から4時まで				
開催場所	瀬戸市役所 北庁舎4階 庁議室				
出席委員	9名（うちオンライン出席2名）	欠席委員	1名	傍聴者	2名
事務局	瀬戸市 経営戦略部 駒田部長 情報政策課 梶田課長、久保井主幹、岡田専門員兼係長、 水野主任、中村主任				
会議内容	<p><b>1. 委員紹介（各委員よりあいさつ：委員名簿順）</b></p> <p><b>（安田委員）</b> 現在、大学で情報学部、大学院で情報学研究科に所属します。瀬戸市とは従来からICT、そしてDXについて意見交換をしまいいりました。今回も委員の皆様と有意義で真摯な議論をさせていただきたいと思ひます。</p> <p><b>（後藤委員）</b> 瀬戸市のDXの取組みについては昨年同様、市民の視点も含めて皆さんと様々な議論を重ねたいと思ひます。</p> <p><b>（岸田委員）</b> 勤務先の所属組織はまちづくりや新規ソリューション創出を担当しています。これらを通じたデジタルの観点からお役に立つ事ができれば幸いです。</p> <p><b>（藤川委員）</b> 勤務先の所属組織は政府のデジタルガバメント推進に対して政策提言を行っています。デジタル田園都市国家構想など政策が地方にフォーカスされている点もあり、よい情報交換をさせていただきたいと思ひます。</p> <p><b>（穴山委員）</b> 勤務先では自治体や社会事業系の事業を推進する組織に所属し、自治体DX推進の企業側の責任者を務めます。過日に「地方公共団体のシステムの標準化・共通化」の基本仕様が揃った事もあり、それらも含めて皆様と課題等を共有していきたいと思ひます。</p> <p><b>（寺田委員）</b> 地元である瀬戸市で陶磁器卸小売業を手掛けます。今年2年ぶりに「せともの祭」が開催されました。このリアルな祭り・賑わいを楽しむ人々を見る</p>				

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>につけ、デジタルとリアルの両方が大切だと考え、地域振興の視点から意見提起したいと思います。</p> <p><b>(田中委員)</b></p> <p>瀬戸市教育委員会として教育の視点で本協議会に臨むとともに、一人の瀬戸市民として、また子供の保護者としての目線も大切にして、昨年度に引き続き参加したいと思います。</p> <p><b>(原委員)</b></p> <p>所属する自治会では新しい人材を入れてデジタル化を進めており、また組織及び会計の透明性確保に向けたデジタル活用も検討しています。昨年度の本協議会では大変刺激を受け、勉強にもなりましたので今年度も期待しています。</p> <p><b>(青山委員)</b></p> <p>今年度第1回協議会にご出席を賜り誠にありがとうございます。DX推進は市民サービスや福祉・教育・産業といった政策推進や行政運営の重要な柱と思います。皆様の大所高所からのご意見をよろしく願います。</p> <p><b>2. 会長・副会長選任</b></p> <p><b>(会長の選任)</b></p> <p>協議会設置要綱第7条第2項に基づき会長の選任について出席委員に諮ったところ、安田委員の会長就任の推薦が寺田委員からあり、拍手をもって承認された。</p> <p><b>(副会長の選任)</b></p> <p>設置要綱第7条第2項により、安田会長からの指名によって後藤委員が副会長に選任された。</p> <p><b>(安田会長より挨拶)</b></p> <p>あらためまして今年度の協議会をよろしく願います。私自身、様々な自治体のDXの推進に関わっておりますが、DXは庁内業務の効率化に加えて、ユーザー目線・住民目線でのサービスのありようが大変重要なポイントであると思いますので、委員の皆様はそれぞれのお立場からの活発なご意見提起をお願いいたします。</p> <p><b>3. 議事</b></p> <p><b>(1) 瀬戸市のICT活用とDX推進の進捗概況について</b></p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p><b>(2) DX重点取り組み事項の推進トピックスについて</b></p> <p>上記について報告資料にて事務局から取り組みの推進状況を説明した。また資料説明の後に、観光・商業振興及び人材育成に向けて「メタ・バース」を利用した仮想市街「バーチャル瀬戸」の構築について紹介した。</p> <p><b>各委員と事務局による取り組みに関する意見・質疑回答</b></p> <p><b>(岸田委員)</b></p> <p>とりわけ「オープンデータ」の利活用についてはスマートシティにつながる施策として推進されている印象を受けましたが、対応しているデータの内容や国の推奨データセットへの適用状況について具体的にご説明下さい。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>近隣7市町で協力・相互補完しながら進めてきた本取り組みは、まずは有益と想定した位置情報として、医療機関や子育て支援施設等に関するオープンデータを統一書式で公開してまいりました。目下、お出かけのお役立ち情報のWebサイト「いこーよ」で利用されています。今回の国の推奨データ書式は7市町データの公開後に公表されたため、現在、その書式に合わせるべく対応をしているところです。</p> <p><b>(岸田委員)</b></p> <p>通常、住民の行動範囲は1市に限らず市町間の境界を意識しない事から、データの公開は瀬戸市単独ではなく周辺の市町を横断する形で進めている点は大変良いと思えました。子育てにやさしい瀬戸市の取り組みとして評価できると思います。</p> <p><b>(安田会長)</b></p> <p>岸田委員のご発言の通り、オープンデータの取り組みについては、7市町の広域による取り組みならではのメリットが全国的に見ても先駆的に発揮されていると思います。</p> <p><b>(藤川委員)</b></p> <p>マイナンバーカードの普及促進の一環で「マイナポータルぴったりサービス」を活用する一方で、「あいち電子申請・届出システム」も申請の入口となっているとすれば、将来的にそれらをいずれかに一本化するのか、並行で運用するのかの展望をお聞かせ下さい。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>現在は、「ぴったりサービス」は公的個人認証が必要となる場合に有効に機</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>能し、「あいち電子申請・届出システム」は目下、公的個人認証の機能がないため、それが不要である申請をするように棲み分けて運用しています。</p> <p>来年度にかけて、アプリ「せとまちナビ」の更新／再構築を行います。行政手続きに於いて、利用者にとって利便性がより高いポータルになるようにしたいと考えています。</p> <p><b>(藤川委員)</b></p> <p>メタ・バースの「バーチャル瀬戸」は建造物の画質も良く大変興味深いものです。説明されたようにリアルからバーチャル（サイバー）へという「メリット」がありますが、さらに次の「ベネフィット」を付加できると良いと思います。例えばバーチャル空間で商品販売ができた場合、その次は商品の企画もできるとか、また、お子様たちがバーチャルで国会議事堂を建造できたら、その次はそこで「子ども議会」を開催するなど、その先に来る盛り上がりやベネフィットとして期待できると思います。</p> <p><b>(穴山委員)</b></p> <p>マイナンバーカード普及促進に向けては、次の段階として「普及から利活用」のための国の政策が出てくるかと思っています。それから、コンビニでの証明書発行は現在、マルチコピー機で利用者がPINを入力する操作となっていますが、次は市役所の窓口でもマイナンバーカードでより迅速に証明書を発行できる新たな手法も出てくると予想しています。</p> <p>それから現在、瀬戸市導入のキャッシュレス決済は証明書の発行手数料の対応が主ですが、自治体によっては軽自動車の納税などにも適用されています。以前は自動車の車検時に納税証明書の写しが必要でしたが既に普通自動車では不要になっており、それが軽自動車でも不要になったので、このような情勢もあり、今後もキャッシュレス決済は適用しやすくなると思います。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>納税について本市はQRコードによる決済に対応しているところですが、市民課・税務課の窓口を導入した今回のマルチブランドに対応するキャッシュレス決済は、非接触のメリットも重視して進めたという経緯がございます。そしてこの先、市役所の支所窓口やスポーツ施設等への展開も、順を追って着実に検討・実施したいと考えています。</p> <p><b>(寺田委員)</b></p> <p>行政のDXの重点取組みは、これまで積み上げてきた数年間で一定の進捗があり評価に値するものもあるし、一方で課題が顕著になってきたものもあると受け止めています。</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>さて、今年度からの新たな取り組みであるメタ・バースの「バーチャル瀬戸」は、現在は「せともの祭」が賑わう市内のエリアが対象になっていますが、それ以外で観光資源として有望な地と想定される場所、例えば「定光寺」などもバーチャルでご案内できると、外に向けて十分アピールできるのではと思います。同様の観点で、自然豊かな市内のスポットで例えば「岩屋堂」なども対象にすれば、瀬戸市内の在住者にとっても美しい地元の再認識ができて「バーチャル瀬戸」は市民からの注目も集まり、より馴染み深くなるのではないのでしょうか。</p> <p>それから、次世代育成の「CDキッズプログラム」は、小中一貫教育やGIGAスクールの一環でアクティブラーニングとして学校の授業でも実施できれば、多くの生徒に対して有意義で魅力ある機会の提供になると思います。瀬戸市行政の各部署が横断的に推進して、市が誇れるキャリア教育にもつなげる事ができないかと思います。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>今後の「バーチャル瀬戸」に於いては、他のバーチャル都市と同様に、自由な空間としてメインエリアから別の場所に直接移動（ワープ）できるような手法を取り入れる予定です。当面、観光資源として「窯垣の小径」はそこに再現してメインエリアから行き来できるよういたしますが、加えて、ご示唆のありました「定光寺」や「岩屋堂」など、相応の拡がり期待できるとなれば、その後取り入れてまいりたいと思います。</p> <p>CGキッズプログラムに関するご意見については、当地では学校で地域産業である陶芸の体験をする授業がございましたように、良い指導者様のお力添えのもとでデジタルコンテンツを創造する体験も授業として実施できれば理想的です。瀬戸市の教育委員会とも意見交換・協力しながら検討する余地はあると思います。</p> <p><b>(田中委員)</b></p> <p>「キャッシュレス決済」に関連して、市の施設を利用する際はインターネットで利用予約ができるものの、現状では利用料金は窓口に行き現金で支払う必要があるため、もしその支払いを子どもに対応させるとなると安全面で無理があります。従って利用料金の支払いが予約時にキャッシュレスで即時に可能になるのは歓迎すべき事だと思います。</p> <p>「バーチャル瀬戸」の基盤であるメタ・バースは、最近ではテレビ番組や歌手のプロモーションビデオなどにも登場して世の中に随分認知されつつあり、心躍るような期待をしています。東京のメタ・バースの市街地は何かしら明るい色合いの印象があるので、「バーチャル瀬戸」の見栄えもカラフルにできると、視覚に訴えてより注目度が高くなるのではと思います。</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>次に、「瀬戸市フリーWi-Fi」についてですが、子どもたちが病院に入院するような場合に、フリーWi-Fiは病室内で余暇を過ごす場合の必須インフラではないかと思っています。名古屋市内の病院ではフリーWi-Fiが使えるとの事なので、同様に瀬戸市の公立陶生病院に於いても簡便な接続手順で利用できれば大変便利になることでしょう。</p> <p>それから、岸田委員も言及されていた「子育てにやさしい瀬戸市」に関連しますが、現在、大学に通う子どもがコミュニティバスの運行を地図とバス時刻表を見比べながら懸命に確認したりしています。今後、ICT活用でさらに迅速かつ便利にそれらを調べる事ができるようになると、子どもや保護者がとても助かります。</p> <p>最後に、最近の事ですが図書館のイベント記事のHPにインターネットで容易にたどり着けなかった事がありました。市のイベント情報については迅速に公開していただき、そして市民が確認し易いしくみが必要と考えますので、今後の改善などをよろしくお願いいたします。</p> <p><b>(事務局 久保井主幹)</b></p> <p>施設利用料金のお支払いにおけるご指摘の課題は、現行の「施設予約システム」を主管する愛知県と利用する市町で共有してしまして、キャッシュレス決済の導入に向けてシステムの改修費用や運用規則変更等々のハードルに対峙しつつ議論が継続しているところです。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>施設利用について、現在、利用者ご本人の公的個人認証に基づいた許可制になっています。現行規約では利用者の確認と支払いで現実性を担保しているわけですが、ご指摘の通り、キャッシュレスという昨今の時流を受けて変革すべく本市も県と一緒に今後の検討をしてみたいです。</p> <p>より利用しやすいWi-Fi環境の整備について、以前、病院様や事業者様に「瀬戸市フリーWi-Fi」導入をメリットと共にご紹介してまいりましたが、容易には広がらなかったという経緯がありまして、課題認識はしていますが難しいところもございます。</p> <p>コミュニティバスの運行情報については、GTF S (General Transit Feed Specification: 鉄道・バス・船・飛行機等についての世界標準の公共交通データ書式で多くの地域でオープンデータとして公開・利用されている) に準拠して、ネットの地図上で停留所などを確認できるようにはしていますが、今後、より利便性を高める方向で何等かの改善の対応も必要かと思えます。</p> <p>瀬戸市のイベント情報の取得のし易さに向けた改善については、現在、市の公式HPのリニューアルを進める中で対応してまいりたいと思えます。</p>
----------------------	--

会議内容  
(続き)

**(安田会長)**

施設利用料金支払いのキャッシュレス化についてですが、DX化が叫ばれる昨今に於いては、いずれの自治体でも要望されている事かと想像します。そこで、県や市町で個別に対応するのも良いですが、例えば国がこれに対応するサービスを統一的・共通的にプラットフォーム化して下さるような動きも期待したい所です。

**(原委員)**

「デジタル・デバインド対策」に関連して、自分の在住地区の状況を事例として情報共有させていただきます。当該地区では冒頭申し上げました通り、ICTの識者が事務局を担って下さっており、LINEも活用しながら情報発信／情報共有の迅速化と利便性の強化を図ってまいりました。このように事務局のICT利用が強化された一方で、ICTが不得手な高齢の方には事務局が直接ご教示申し上げたりしています。その意味でも現在、市が推進する「高齢者が支え合うデジタル・デバインド対策」の内容について先ずは情報収集し、必要に応じて地区内にも取り込みたいと思います。

そして来年の地区の50周年記念行事に於いては、若い住民の皆様にも共感を得られるようなHPを立ち上げて、それを通じて地域興しの団体様や大学のゼミの皆様と繋がる事で有意義な情報を発信しようとしています。

以上のような活動を通じて、若い住民の皆様が面白い事が実行できて活動に関わる喜びを感じ、一方でデジタルが不得手な方々は少しでもお支えできるよう、そんな一体感を持った活気ある地区に是非していきたいと考えています。

**(後藤副会長)**

昨年度も含めてこれまでの活動プロセスを理解している上で申し上げますと、DXの一つひとつの取組みに庁内の多くの職員が相当な時間を費やして精力的に進められてきた事と想像します。

そして、そのような段階を経て施策が実際の形となり、運用フェーズに入っている事案には、利用者側から次なる要望やさらなる課題が提起されてくる事も必然的な流れであります。これらの要望・課題への対応として、システム／コンテンツのアップデートや、場合によっては見直しやスリム化等も必要となる訳です。それは正に「血の通ったシステムに育てていく事」、すなわち、作ったまま放置せず適宜メンテナンスしてシステムの利便性を実感するという事であり、今は既にそのような段階に来ているかと思います。

関連しましてアプリ「せとまちナビ」については、今後のリニューアルが計画されていますが、最近、運用ルールが変更されたゴミの分別に関する事

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>をナビで確認した際に、情報に容易に辿り着けなかった事がありました。市民・利用者の皆様はまさにそのような不便な点に敏感であり、当然、これもキメ細かな情報の更新が重要でそのためには人的資源の配置も必要です。こういった日々の対応こそが先ほど申し上げたアプリに血を通わせる事と思っています。</p> <p>また、「コンビニでの証明書発行」は利便性の高さを自分自身も実感しているところです。しかし、コンビニ店舗によってはマイナンバーカードを使う証明書発行のマルチコピー機が他のお客様もよく通る場所に設置されていたりして、個人情報の面で少し不安になる事がありました。この事からも、血の通った良いシステムにするためには、使う技術にとどまらず、運用全体についていかに配慮できるかが重要であり、単なるDX化を超えてさらにその先に求められる事ではないでしょうか。</p> <p>そして最後に「バーチャル瀬戸」ですが、将来的に大変面白い取り組みであり、例えば通常は立ち入りできない「せとキャニオン」(瀬戸市内にある陶土や珪砂採掘の行われた鉱山跡地)内へバーチャルで訪れる事ができたり、そこでロックフェスやライブイベントを開催したり、或いは、バーチャルな商店街で子どもが店舗を開いたりできるなど、リアルな世界では実現・体験し得ない事について様々な可能性がある空間になりうる事でしょう。今後の広がりや発展に大いに期待しています。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>先ずは原委員の「デジタル・デバインド対策」に関する地区の情報ご提供ありがとうございます。「高齢者が支え合う」という発想についてですが、過去に於いて地域の要請により公民館でスマホ講座を開催した際に、講座内容をご理解できないご高齢の受講者もおられました。そのような場合の対策として、先ず主催の公民館の役員様に講座内容を事前に理解いただいた上で、開催時の教室内のサポート役に回っていただいたという事例からヒントを得たものです。高齢者が支え合う、つまり教え合う形を念頭に、先ずはスマホの使い方を中心に、本市まちづくり協働課の支援のもと市民団体・NPO・グリーンシティケーブルテレビ殿より講座の開催・運営にご尽力を賜っていただき、市民様のICTリテラシーの向上に寄与できることを願っております。</p> <p>それから、後藤副会長がご示唆の「システムは育てるものである」というご示唆は肝に銘じて施策を推進しているところでございます。DXの取組み事案が多少進捗した現段階で、おっしゃる通り、庁内外の利用者からのご意見やご要望も少なからず出てきていますので、この先もそれらを真摯に受け止めて対応してまいります。</p> <p><b>(安田会長)</b></p>
----------------------	--



<p>会議内容 (続き)</p>	<p>後藤副会長のご発言にもありましたように、瀬戸市のICT活用・DX推進は概ね順調に推進されている印象を受けました。その上で、よりよいDX推進に向けて伺いたい点と意見を述べさせていただきます。</p> <p>まずは、今回の報告では「市民サービス向上」に関する取組みが一定の進捗を得ている点を理解することができましたが、一方で、庁内の行政実務の業務プロセスの変革も極めて重要なことですので、それに向けて瀬戸市役所内では現行の行政実務の棚卸しについては、どの程度進められていますでしょうか。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>ご質問の業務プロセスの棚卸しやBPR (Business Process Reengineering) については、これから始まる「地方公共団体のシステムの標準化・共通化」への対応と併せて関係各課が本格的に取り組むべき事項ではありますが、目下の取組み度合に言及させていただきますと概ね1～2割程度かと見ており、さらに進めていく必要性を感じているところです。</p> <p>因みに現在、各課・公所にデジタル活用を進める「DX推進員」を配置していきまして、部署によってDXの取組み意欲に濃淡はあるものの、問題意識がある推進員からは個別の改善案件がいくつか情報政策課に持ち込まれたりしています。これらのうちで良い改善につながったものは小さな成功体験として積み重ねて横展開・共有していくことを大切にしたいと考えます。</p> <p><b>(安田会長)</b></p> <p>ご説明ありがとうございます。次に、DXに向けた業務の見える化・棚卸しの推進は、他の各自治体殿もご苦労されている中で、梶田課長も言われた各部署の改善事例や取組み事例をグット・プラクティスとして庁内で横展開しながら、業務を一番よくご存じの市役所職員の皆様全員がより良いDXの効率化を推進いただければと思います。</p> <p>それから、瀬戸市を代表する教育プログラムにもなったとも言える次世代クリエイター育成の「CGキッズプログラム」は是非継続していただきたいところですが、一方で、庁内の職員に限らない「瀬戸市のDX人材育成」については、小学生からプログラミング教育が始まるという話もありますが、さらに進めて「SDGsも含めた社会課題をデジタルでどう解決するか」の要素を入れてその頃の年代からDX視点で考え素養をつけられるようにすると良いかと思えます。</p> <p>また、本日の取組み報告に「公立保育園のWi-Fi環境整備」がありましたが、関連して他の自治体殿の保育園の例で言いますと、保育士さんの日々の煩雑な業務をデジタルで大幅に軽減しておられる所もあります。瀬戸市の保育園も同様に、インフラ整備の先にある「業務課題の本質的な解決」に是</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>非つなげていただくことを願っています。</p> <p>「A Iチャットボット」(総合案内サービス)についてですが、これは道路や建物と異なり「サービス」でありますので、後藤副会長もご発言の「作って終わりではなく育てて行く」ことが最も大切と考えます。チャットボットにいただく数多くのご質問の中でもとりわけ頻繁に問われる事項については、迅速に担当課にお願いして行政ナレッジとしての回答を組み立てていただければと思います。</p> <p>「あいち電子申請・届出システム」における丁寧なマニュアル展開には感心した所ですが、さらに今後は、テキストの教材に加えてビジュアルなショートムービー等により活用スキルを共有したらいかがでしょうか。さらなる利用の促進の一助となるかと思えます。</p> <p>「コンビニでの証明書発行」に関しては、現行の証明書発行に加えて、その端末(マルチコピー機)を利用した別の新しいサービスを構想いただくことも今後の可能性としてあるかと思えますので、是非ご検討下さい。</p> <p>「バーチャル瀬戸」の構築状況のご紹介大変ありがとうございました。メタ・バースはサイバー空間に先ずはリアルな「建物や物体」を再現することから始まるわけですが、次に重要な事は「そこにリアルなデータをどう載せていくか」であり、そして「その上で新たな発想をどう育むか」と考えます。例えば人流や車の流れ、あるいは様々なインフラの情報をバーチャル空間に投入して、観光施策やインフラのメンテナンスなど、様々な実効性のある新しい施策につなげて下さることを大いに期待したい所です。</p> <p>最後に、「オープンデータ・官民データ」についてですが、データの活用による利便性が向上する一方で、実はそこで個人情報や営業情報をいかに守るかの課題もあり議論されているところです。「秘密計算」に代表されるような「プライバシー・テック」と言われる情報防衛のテクノロジーの活用動向もウォッチしていただきながら、民間事業者と自治体がどのような情報を共有・流通したら良いか・できるかも、この先考えて下さるようお願いします。</p> <p><b>(岸田委員)</b></p> <p>ここまでの取組み状況の報告から判断すると他の市町殿と比較して先進的な取組みもいくつかあり、DXのいわゆる第1ステップである「オフラインをオンラインへ」「紙を電子へ」「手動を自動へ」などについて概ね着手または完了されているようにお見受けしました。そして、来年度以降はこれまで手がついていない領域にも中長期的な視点でさらに踏み込まれていくかと想像しますが、その中でとりわけ「バーチャル瀬戸」には大きな可能性を感じた次第です。一方で、DXも、メタ・バースも、人材育成もあくまで手段であり目的ではない事はご承知かと思えますので、瀬戸市も今後のまちの文脈、目指す姿、市民様の求める価値に沿って取組みを模索されていくことと思</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>ます。そう言った点を踏まえて、もし来年度以降の新たな取組みテーマ等の構想や企画がございましたらお示し下さい。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>これまでの重点取組みの推進において相応の人的・物的リソースを費やしておりまして、さらにこれから本格的に推進すべき事項も残っていますので、現時点では次のグランド・デザインとしての具体的な構想には至っていないのが正直なところです。</p> <p>例えば庁内文書のファイリング・システム及び文書管理システムの取組みは道半ばであり、前者が全庁的に整ったあかつきには、いよいよ次の段階となる電子決裁すなわち文書管理システムに決裁フローが全面移行されていくなど、現在進行中のインフラ整備が完了し、その上で次の施策が当面の課題となっているところです。</p> <p>但し一方で、メタ・バースについて、安田会長もご示唆の「バーチャルの世界で如何にリアルデータを活用するか」の観点で申しますと、来年度にかけて市の公式HPをリニューアルする取組みの一環として、例えば市中のサイネージ端末にカメラを配置してそこで捉えた人流データを「バーチャル瀬戸」で試行活用できないか、等々の検討をしています。</p> <p><b>4. 閉会</b></p> <p><b>(安田会長)</b></p> <p>本日も貴重なご意見・ご提案をいただきました。引き続きこの協議会の委員の皆様におかれましては、厳しいご指摘も含めて大いに意見提起をしていただき、あるいはお知恵を授けていただくことで、瀬戸市のいわば応援団的な立場でDX推進の後押しをしていただければと思います。</p> <p>他にお気づきの点などがありましたら、適宜メール等で今後も意見交換ができればと思いますので、宜しく願いいたします。</p> <p>大変ありがとうございました。</p> <p>今回の議事については以上となりますので、進行を事務局にお返しします。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>会長による議事の進行、そして委員の皆様からの大変有益なご意見・ご示唆に対して、心より感謝申し上げます。</p> <p>本日の議事録は後日、委員の皆様を確認いただいた上でご報告資料と共に市の公式HPで公開させていただきますのでご承知おき下さい。</p> <p>そして、次回は第2回協議会として書面によるご報告をいたします。また、年度末に第3回協議会を集合形式で実施したく存じます。日程等は別途調整しますのでよろしくお願いいたします。</p>
----------------------	---

会議内容 (続き)	<p><b>(事務局 駒田経営戦略部長)</b></p> <p>本日はご出席を賜り、そして多くの貴重なご意見と情報をいただきまして、厚く御礼申し上げます。DXに関連しまして昨日の国会での首相の所信表明演説では、「社会課題を成長のエンジンへと転換し持続的な成長の実現に向けて、DXに関連する4分野を重視し取組みを加速する」とされ、とりわけ「地域でのデジタル技術の社会実装は重点的に支援」とありました。</p> <p>本市に於いてもご報告の通りモノやコトが目に見える形になってまいりましたが、引き続き、国のDXをしっかりとキャッチアップしつつ今後、新しいDX時代の市民サービスの向上や行政事務の効率化、そしてさらに、ご紹介した「バーチャル瀬戸」により、誇れる瀬戸市のまちづくり、そして夢や楽しみが持てるまちづくりに鋭意取組んでまいります。委員の皆様におかれましては引き続きご指導とご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>それでは、これにて本協議会を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--------------	---